

発行月日 平成24年9月15日
〒238-0026 神奈川県横須賀市小矢部2-14-1
http://shunko-gakuen.jp/index.html

社会福祉法人 春光学園
児童養護施設 春光学園
☎ 046-851-2362 FAX 046-851-2332

神奈川県児童福祉施設野球大会
神奈川県児童福祉施設水泳大会

がんばった野球・水泳大会



8月6日より横浜の保土ヶ谷球場において開催された神奈川県児童福祉施設野球大会では春光学園は一回戦で聖園子供の家と対戦し敗退しました。それでも選手の皆は最後まであきらめずに試合をしていました。

8月25日に横浜向陽学園で行われた神奈川県児童福祉施設水泳大会では個人競技で1位を5個、2位を2個、3位を2個取ることが出来ました。

野球部・水泳部の子ども達は、暑い中、毎日の練習をがんばっていました。このがんばりを今後に活かしてくれることを期待しています。

今年の夏も各団体様より各種の招待行事等があり子ども達が参加させていただきました。40日に及ぶ長期の休みで気が付くと無駄に休みを過ごす中、各招待行事等でメリハリのある楽しい生活を送ることが出来ました。招待等して下さった各団体の皆様、ありがとうございました。



平成24年度指導監査

7月9日に横須賀市の指導監査課等職員8名が来園して児童養護施設春光学園の指導監査が実施されました。特に文書指導等はありませんでしたが、今後も透明性の高い施設運営を心掛けていきたいと考えています。

施設職員から見た施設の現状と課題 ①

春光学園では保育士・児童指導員以外にも園長をはじめ副園長・事務会計・FSW・心理士・看護師・栄養士・給食員等、多数の職員が子どもの生活に関わっています。色々な職員から見た施設の現状と課題を各職種の職員に連載形式で語ってもらい、皆様の施設理解の一助にしたいと思います。

第一回目は「栄養士から見た施設の現状と課題」です。

「栄養士から見た施設の現状と課題」

原澤 麻由美

「えいようしさん！今日のごはんはなあに？」とよく子ども達に声をかけられます。子ども達にとって、献立はとても関心のあることのようにです。「チーズハンバーグだよ。」と答えると、ガッツポーズを見せていました。とてもかわいらしいと思う瞬間です。食べることで少しでも子ども達の心と体の健康を保つことが出来ればいいなあと思います。

施設に入所して来る子ども達は、食の経験が極端に少なく、園に来て初めて食べる食材も少なくありません。そのためか、新メニューなどの新しい味や食材には敏感で、なかなか受け入れられず、慣れるまでに時間がかかります。食生活の面でも、温かい配慮に恵まれなかった児童も多く、味覚の発達段階に手作りのものではなく、市販のものを多く食べていたこともあり、濃い味を好む傾向にあります。また、発育・発達段階に応じた食習慣など基本的な生活習慣が身につけていない場合も多いので、時間をかけて、そのフォローも必要となります。出来るだけ、バラエティに富んだメニューで、いろいろな食材の経験ができるように心がけ、味覚の修正はなかなか難しいのですが、いろいろな味を経験できるようにしています。また、与えられた食事を食べるだけで、食事を選択する力が身につけていないので、月に1回、子ども達の要望を取り入れたリクエストメニューを実施し、バイキング方



神奈川県共同募金会より 施設整備配分金を受け 高圧受変電設備更新工事実施

ユニット化・個室化改修工事でとてもきれいになった学園ですが老朽化した高圧受変電設備更新まで手を付ける事が出来ませんでした。今回、神奈川県共同募金会様よりの補助を受けて高圧受変電設備更新及びPASの新設を行う事が出来ました。ありがとうございました。



学園流しそうめん・BBQ



8月14日にいつも学園のご支援を行っていただいている各団体・ボランティア・子ども達の通っている各学校の皆様をお招きして夏の恒例行事の学園流しそうめん・BBQを行いました。冷たい流しそうめん

で涼をとって、お肉やフランクフルトのBBQをおなかいっぱい食べて子ども達は満足。この勢いで夏の暑さを乗り切っていました。



式で子ども自らが食事を選択する機会を取り入れるようにし、食材・料理名を知る等、食べることに興味を持てるような配慮もしています。また、年中行事の際の行事食など食文化について伝える事も大切にしています。

現在、ユニット化工事が終了し、食事を各ユニットで食べるようになりました。子ども達も職員も、食事の準備に追われる日々ですが、今までの集団で食べるのとは違い、より家庭的な雰囲気です。ゆとりある落ち着いた環境の中で食事をすることが出来ています。

今までは、「食事を作る」といった経験もなかなか出来ず、子どもが自分の食べるものを自分で調理する機会がほとんどありませんでした。今後は、ユニットでの食生活の中で、日々の食事の献立により、栄養や自分にとっての適切な食事の量についての関心・理解を深め、食事に必要な食材の買い物、食事作りの手伝いや後片付けなどの機会を通し、食事が作られるまでの行程を学ぶなど、子どもが施設退所後、社会で自立して生活していける力を育てる支援が必要です。そこで、年齢や発育・発達の段階にあった調理経験、基礎的な調理技術を習得できるように、調理実習計画を立て、実施して行くことが課題です。また、外食を含め食事をバランスよく摂ることや、健康管理等具体的な生活技術を習得させることも必要です。ユニット化で、食事が身近なこととなり、子ども達が積極的に食事作りに参加し、家庭的な感覚を養っていけるよう、検討を重ねて行きたいと思えます。

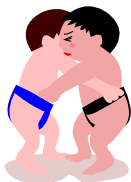
衣笠小学校5年 臨海学校へ

7月24～25日に衣笠小学校の5年生が三浦ふれあいの村で行われた夏の臨海学校に行ってきました。学園から離れて泊まるという経験の少ない子ども達ですが、天気にも恵まれ真っ黒になり、少し遅くなって帰ってきました。

両国国技館

わんぱく相撲全国大会参加

7月29日に両国国技館で行われた第28回わんぱく相撲全国大会に横須賀市の代表として春光学園の小学生が1名参加しました。一回戦は勝ちましたが二回戦で健闘むなしく敗退しました。しかし参加した子供は全国大会という晴れ舞台に立て良い経験が出来たようでした。



衣中体育祭開催

9月8日に衣笠中学校の体育祭が秋晴れの中で開催され、学園の子ども達も競技に応援に頑張っていました。今年は赤軍の優勝でしたがどのカラーも一生懸命で参加していました。

第一衣笠町内会夏祭り

7月15日に行われた第一衣笠町内会の夏祭りに地域貢献の一環として学園の子ども達も参加しました。暑い中、子ども達は頑張って小矢部2・4丁目町内会をお神輿を担いだり山車を引いたりして練り歩き、最後には衣笠神社までお神輿を担ぎ上げていました。

衣笠小学校様・衣笠中学校様

プール借用ありがとうございました

今年の夏休みも衣笠小学校・衣笠中学校のプールをお借りしました。衣笠小学校のプールは子ども達の余暇活動に、衣笠中学校のプールは児童福祉施設水泳大会に向けての春光学園水泳部の練習の為にお借りしましたが、おかげさまで充実した夏休みを過ごす事が出来、児童福祉施設水泳大会では選手の子も達もよい結果を出す事が出来ました。衣笠小学校様・衣笠中学校様、毎年の借用ありがとうございました。

7・8月の招待・慰問行事

- 7月1日 ライジングサン慰問
ベース招待
- 7月14日 横須賀友の会料理教室招待
- 7月22日 浦様ウインドサーフィン招待
- 7月25日 横須賀中央ライオンズクラブ丹沢遊び・BBQ招待
- 7月28日 三崎マリノヨット乗船・納涼祭招待
- 7月29日 ベースNAVFAC・BBQ招待
- 8月1～3日 フィアデルフィア教会キャンプ招待
- 8月2・3・5日 神奈川県遊技場協同組合・神奈川福祉事業協会ポリショイサーカス招待
- 8月23日 学童寮向島さん江の島海水浴招待
- 8月23日 アキ美容室チャリティゴルフ

お貸し下さい 家庭体験の場を

現在、春光学園では、75名の子ども達が生活しています。家庭状況によって、面会、外出・外泊、夏冬の長期帰省(外泊)を行っています。しかし、近年、子ども達の家庭状況が複雑になり、面会や外泊等といった家庭との繋がりが持てない子ども達が増えてきています。特に、乳児院から直接学園に入所した子ども達は、全く家庭生活を体験することなく成長する事になります。家庭生活を体験しないままに長期間にわたって施設生活を送り、そのまま社会に巣立つことも珍しくありません。帰れない子どもは、帰れる子どもを見て、自分の生い立ちに劣等感を抱くことも少なくありません。

学園では、こうした機会を持たない子ども達についてはボランティアファミリー(週末里親)の制度を利用して対応していますが、まだまだ足りないというのが実情です。学校の運動会やその他の催しに家族に代わって役割を果たしていただく事もあります。自分が頑張っている姿を見てもらえるという事は、子ども達にとって大きな喜びであるようです。

現在、学園では、ボランティアファミリー(週末里親)を募集しています。制度を知りたい方、やってみたいという意欲のある方は、是非ご連絡ください。

尚、ボランティアファミリーを行う為には事前に研修等があります。

《連絡先》

○横須賀市児童相談所

横須賀市小川町16番地 はぐくみかん3階 ☎046-820-2323

○児童養護施設 春光学園

横須賀市小矢部2-14-1 ☎046-851-2362



夏の思い出



横須賀友の会料理教室



ウインドサーフィン招待



ホリョイサーカス招待



横須賀中央ライオンズ丹沢招待



三崎マリンヨット・納涼祭招待



町内会祭り



流しそめん



流しそめん・BBQ



流しそめん・BBQ

春光美術館



丹沢招待の思い出(共同作品)



うみ たのしかったよ



パパとおでかけ

ボランティア募集

春光学園では、子ども達の為に色々なボランティアを募集しています。あなたもボランティアをしてみませんか？

◎遊びのボランティア 小学生を中心に一緒に遊んでいただける方で曜日・時間については相談の上

◎学習ボランティア 小中学生の勉強 時間 17:00 以降で相談の上

◎幼児のボランティア 遊び・掃除・洗濯・縫い物など

【問い合わせ】

◎春光学園 児山 〒238-0026

横須賀市小矢部 2-14-1

☎046-851-2362

FAX046-851-2332



平成24年7～9月に御支援を頂いた皆様

在日米海軍横須賀基地NAVFAC様・横須賀中央ライオンズクラブ様・神奈川県遊技場協同組合様・神奈川県福祉事業協会様・横須賀友の会様・ライジングサン様・三崎マリン様・横浜マリノス様・横浜銀行様・湘南衣笠ゴルフ(チャリティーシート)様・キッザニア東京様・セカンドハーベスト様・社団法人神奈川県養豚協会様・リブレット基金事業財団様・第一衣笠町内会様・衣笠栄町町内会様・岡村製作所労働組合様・フリップモリス様・久里浜中央自動車学校様・東商不動産様・フィアデルフィア教会様・浦様・大川様・石渡様・小松様(横浜)・三代川様・小林様・向島様・アキ美容室様 その他、匿名の方を含めて多数の方(順不同)。

たくさんの御支援 ありがとうございます

衣笠歳時記 その⑬

春光学園長 小林 秀次

今年の残暑は殊の外厳しいものがあるが、虫達の聲が日毎に賑やかに感じられるようになり、行く雲にも秋の訪れを感じる季節になった。待ち遠しかった天高く馬肥ゆる秋が直ぐそこまで来ている。

学園は今年で創立67年を迎え、戦前の時代を含めると歴史は90年に及ぶが、まだ後援会は設立されていない。この間、後援会の設立については後援者の方からの強い勧めがあった。法人としても地域社会の理解に支えられた社会福祉法人づくりと財政基盤の強化という観点で後援会設立の必要性を強く感じていたので、この時期を逃さずに取り組みを決意して、5月の理事会で正式に後援会設立の方向性を決定した。

幾人かの後援者の方々やすでに後援会をお持ちの法人に助言をいただき、取り敢えず、相談役と呼び掛け人をお願いして行くことから始めることになった。こうした中で、相談役については、森田理事長の古くからの友人であり、後援会の設立について助言をいただいてきた横須賀商工会議所会頭の木村忠昭氏にお願いすることが出来た。呼び掛け人についてはボランティア等で法人と繋がりのある方々を中心にお願いすることになったが、快くお引き受けいただいたばかりか、様々な助言と励ましをいただくことができ、感謝に堪えない。次第に人数が増えて、最終的に18名の方(法人役員を加えると25名)にお願いすることが出来た。お陰様で、秋には正式に後援会を発足する運びとなった。それにしても、森田理事長の人脈の広さと厚い信頼を受けていることを感じ、敬服した次第である。

この夏も学園では、目白押しで行事が続いた。子ども達と職員の頑張りで、無事に乗り切ることができたが、やや疲れ気味である。行事と言えば、児童福祉施設の野球大会は古く内山岩太郎知事の尽力で実現したもので、今年で52回を数える歴史ある大会である。知事の肝煎りで始まったこともあり、今でも保土ヶ谷球場で開催されている。学園は優勝経験もあり、常にベスト4の常連であったが、ここ2年は初戦敗退が続いている。同時に開催されるソフトボール大会に至っては、ここ4年ほど出場することさえ叶わなくなった。

半面、今年の野球部活動には明るい兆しも認められた。これまで、学童については男子寮と女子寮に分かれていて、協力して一緒に取り組むという機会が少なかった。今年は、ユニット化を契機に、学童寮としてひとつなり、野球部活動にはたくさんの女子がマネージャーとして活躍してくれたので、ソフトボール大会の出場が久々に叶うのではないかと期待している。野球部についても、少しずつ力を付けており、後一步のところまで来ているようで、来年こそはと思っている。

4年ほど前は、長期の休みに帰省できる子どもが5割ほどい

たのに、最近は、ほとんどの子ども達が家庭に帰れず学園に残留するようになった。入所以来、全く顔を見ていない親御さんも少なくない。以前は残留する子ども達のために、残留児対策と称して様々な行事を企画してきたが、「残留児」という言葉自体が成立しなくなってきた。

学園は、自立に向けて働く力を養う意味で高校生の「アルバイト」を奨励している。これまで、私自身、高校生がアルバイトをすることを至極当然のことと考えていたが、最近はそう簡単でなくなってきた。学園では、子ども達が携帯電話を購入するには、「アルバイト」をすることが条件になっている。どの子ども達も携帯電話が欲しくて仕方ないのは明らかなのだが、そのことがアルバイトをするというモチベーションには中々繋がらない。子どもがアルバイトをしたいと考えたとしても、面接に合格しないことが多い。うまくアルバイトに結びついても、子ども達は思わぬこと^{つまず}で躓いてしまう。簡単な金銭の計算が出来ないとか、対人のマナーが出来ていない、通勤経路が理解できていないとか、個々の仕事は出来てもマニュアルにある一連の仕事の流れになると出来なくなるといったことが失敗の理由である。一方で、職員の捉えている子ども像はそこまで出来ないと考えていないことが多い。児童相談所の心理診断も、抽象的であり、実際の子どもの生活課題を浮き彫りにするという意味では十分でない。このギャップを何とか解決しないとアルバイトが上手く行かないというばかりでなく、自立の取り組み自体が困難になりかねない。この夏、養護学校高等部1年生の女子が、他の子ども達が尻込みする中、学校のカーテンのクリーニングのアルバイトに挑戦した。暑い中のハードなアルバイトなので、最初は心配したものだが、ひと夏を頑張り抜き、20万円近くを稼ぎ、念願のスマートフォンを手にした。そればかりでなく、働くことのたいへんさを学んだようで、顔も引き締まり、言うことも大人になったというのが周囲の評価である。10月からはガソリンスタンドのアルバイトがはじまる。

このようにアルバイトは、上手く行けば子どもの可能性を引き出し、我々に自立に向けた手懸りを与えてくれる。例え、上手くいかなかったとしても、子ども自身が自分の力を分っていないことが多いし、早い段階で個々の子どもと職員が、その子どもの課題を確認できることは決して無駄ではない。現在、小学生の約半数が特別支援級に在籍しているという事実は、学園の子ども達のおかれている実態の厳しさの一端を示しており、社会的自立に向けた取り組みに益々困難さが増しているということの意味する。私達は、こうした子ども達を自立に向けてどう育てるのかという支援のあり方と自立支援計画における中・長期の目標について、より深い再検討が求められていることを自覚しなければならない。このことなくして、子ども達は、学園の園是である「楽しく働く人」には到底成り得ない。

